

令和6（2024）年度

教育課程説明会

- ・ 如是中の学びについて
時数・取り組み・テスト・評価 他
- ・ 「学びの手引き」
各教科担当より

高槻市立如是中学校

はじめに

わたしたちの生活は、現代社会特有のさまざまな課題に取り巻かれています。新学習指導要領でも、「将来の予測が困難で複雑で変化の激しい社会を生きる子どもたちに、学校で育成された力を素地として、将来にわたって活用できる能力を育む必要がある」と示しています。この資質・能力を身に付けていくためには、主体的・対話的で深い学びが必要とされます。

如是中学校は「自ら学び、行動できる心豊かな生徒の育成」を学校教育目標に掲げています。基礎・基本となる知識・技能を習得し、それらを活用する「思考力」「判断力」「表現力」の育成とともに、意欲的に学ぶ姿勢を育むため、教職員一丸となって授業研究に取り組んでいます。

この冊子では、本校の目指す教育の概要をお伝えします。さらに、各教科で目指す「つきたい力」を明確にし、どのような学力がつけばよいかが分かるように「学びの手引き」も作成しています。見通しを持って学習に向かえるよう、子どもたちには活用してほしいと思います。保護者の皆さまもぜひご一読ください。

尚、ご不明な点等ございましたら、ご遠慮なくお尋ねください。

如是中学校

072-694-2862

【令和6年度 如是中学校 学校教育目標】

- ・多様性を認め合う心豊かな生徒の育成
- ・自ら学び、考え、判断し、行動できる自立した生徒の育成

1、教科授業時数について

	年間時数 (標準)			週授業時数(如是中)					
	1年	2年	3年	1年		2年		3年	
	前後期	前後期	前後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
	35	35	35	20	21	20	21	20	20
国語	140	140	105	4	4	4	4	3	3
社会	105	105	140	3	3	3	3	4	4
数学	140	105	140	4	4	3	3	4	4
理科	105	140	140	3	3	4	4	4	4
音楽	45	35	35	2	1	1	1	1	1
美術	45	35	35	1	2	1	1	1	1
保体	105	105	105	3	3	3	3	3	3
技家	70	70	35	2	2	2	2	1	1
英語	140	140	140	4	4	4	4	4	4
道徳	35	35	35	1	1	1	1	1	1
特活	35	35	35	1	1	1	1	1	1
総合	50	70	70	1	2	2	2	2	2
週時数	29	29	29	29	29	29	29	29	29
総時間数	1015	1015	1015	*	*	*	*	*	*

2、令和6年度 授業研究テーマ

【授業研究テーマ】

- ・「単元」を見通した授業づくり
→単元を通して、「何ができるようになるか」「何ができるようになったか」を、生徒と共有・確認できる計画的な授業づくり
- ・家庭学習の充実
→自分で学び方を工夫したり、計画的に学習する力の育成

3. 学習環境づくり

- ・活動に集中しやすいように黒板周りの刺激減。
- ・持ち物を整理し、自己管理しやすいように、6ポケットファイル、整理ボックスの活用。
- ・見通しをもって、学校生活が送れるように、週間スケジュール、連絡用ホワイトボードの設置。
- ・学習がどこまで理解できているか、グループやペアで確認し合いながら授業を進め、話し合いや発表などで考えを深め合う。

4. 評価について

学習指導要領が掲げる「育成を目指す資質・能力」の3つの柱

- ①「知識及び技能」の習得
- ②「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ③「学びに向かう力、人間性等」の涵養

通知表では・・・

- 育成を目指す3つの資質・能力を観点別に評価し、総括して評価を出します。
- 目標・評価規準を明確にし、到達度を評価する「絶対評価（目標準拠評価）」により評価します。

⇒3つの資質・能力の育成につながる評価を目指した本校の取り組み

- * 目標や評価規準の明示。
- * 学びの自己調整を促す「中間交流」や「振り返り」の機会を設定し、形成的評価を行う。
- * ペーパーテストに加え、レポート・発表・パフォーマンステスト・グループ活動等、多様な評価材料から、多面的・多角的な評価を行う。

平成28年度の大阪府公立高校入試より、調査書の「学習の記録」に、「目標準拠評価」が導入され、1年生からの3年間の評価が対象となります。1年生の時から日々の授業への取り組み、学習習慣が大切となります。

如是中学校としても対応するため評価研究を進めています。授業での取り組みについても、「書いた」「提出した」「挙手した」といった表面的なことではなく、目標の達成に向けて、学びを適切に振り返り、学び方を工夫しているか、発表やレポートの内容がねらいに即したものになっているか等が問われます。

生徒には授業の中で、目標と評価の規準について具体的に説明をしています。

5. 通知票の見本

令和 年度 前期 通知表																																																																																															
高槻市立如是中学校		校長	担任																																																																																												
年	組	番	生徒名																																																																																												
学習の記録 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">教科</th> <th style="width: 45%;">観点</th> <th style="width: 10%;">評価</th> <th style="width: 40%;">評定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">国語</td> <td>知識・技能</td> <td></td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>思考・判断・表現</td> <td></td> </tr> <tr> <td>主体的に学習に取り組む態度</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">社会</td> <td>知識・技能</td> <td></td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>思考・判断・表現</td> <td></td> </tr> <tr> <td>主体的に学習に取り組む態度</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">数学</td> <td>知識・技能</td> <td></td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>思考・判断・表現</td> <td></td> </tr> <tr> <td>主体的に学習に取り組む態度</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">理科</td> <td>知識・技能</td> <td></td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>思考・判断・表現</td> <td></td> </tr> <tr> <td>主体的に学習に取り組む態度</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">音楽</td> <td>知識・技能</td> <td></td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>思考・判断・表現</td> <td></td> </tr> <tr> <td>主体的に学習に取り組む態度</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">美術</td> <td>知識・技能</td> <td></td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>思考・判断・表現</td> <td></td> </tr> <tr> <td>主体的に学習に取り組む態度</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">保健体育</td> <td>知識・技能</td> <td></td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>思考・判断・表現</td> <td></td> </tr> <tr> <td>主体的に学習に取り組む態度</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">技術家庭</td> <td>知識・技能</td> <td></td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>思考・判断・表現</td> <td></td> </tr> <tr> <td>主体的に学習に取り組む態度</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">英語</td> <td>知識・技能</td> <td></td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>思考・判断・表現</td> <td></td> </tr> <tr> <td>主体的に学習に取り組む態度</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 特別の教科 道徳 総合的な学習の時間 学習活動 特別活動の記録 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">生徒会活動</td> <td></td> </tr> <tr> <td>学級活動</td> <td></td> </tr> <tr> <td>クラブ活動</td> <td></td> </tr> </table> 出欠の記録 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 15%;">授業日数</th> <th style="width: 15%;">欠席日数</th> <th style="width: 15%;">遅刻</th> <th style="width: 15%;">早退</th> <th style="width: 40%;">備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> 総合所見 【観点別評価の基準】 A: 「十分満足できる」状況と判断されるもの B: 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの C: 「努力を要する」状況と判断されるもの 【評定の基準】 5: 「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの 4: 「十分満足できる」状況と判断されるもの 3: 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの 2: 「努力を要する」状況と判断されるもの 1: 「一層努力を要する」状況と判断されるもの				教科	観点	評価	評定	国語	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		社会	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		数学	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		理科	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		音楽	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		美術	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		保健体育	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		技術家庭	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		英語	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		生徒会活動		学級活動		クラブ活動		授業日数	欠席日数	遅刻	早退	備考					
教科	観点	評価	評定																																																																																												
国語	知識・技能																																																																																														
	思考・判断・表現																																																																																														
	主体的に学習に取り組む態度																																																																																														
社会	知識・技能																																																																																														
	思考・判断・表現																																																																																														
	主体的に学習に取り組む態度																																																																																														
数学	知識・技能																																																																																														
	思考・判断・表現																																																																																														
	主体的に学習に取り組む態度																																																																																														
理科	知識・技能																																																																																														
	思考・判断・表現																																																																																														
	主体的に学習に取り組む態度																																																																																														
音楽	知識・技能																																																																																														
	思考・判断・表現																																																																																														
	主体的に学習に取り組む態度																																																																																														
美術	知識・技能																																																																																														
	思考・判断・表現																																																																																														
	主体的に学習に取り組む態度																																																																																														
保健体育	知識・技能																																																																																														
	思考・判断・表現																																																																																														
	主体的に学習に取り組む態度																																																																																														
技術家庭	知識・技能																																																																																														
	思考・判断・表現																																																																																														
	主体的に学習に取り組む態度																																																																																														
英語	知識・技能																																																																																														
	思考・判断・表現																																																																																														
	主体的に学習に取り組む態度																																																																																														
生徒会活動																																																																																															
学級活動																																																																																															
クラブ活動																																																																																															
授業日数	欠席日数	遅刻	早退	備考																																																																																											

6. 通知票の見方

[学習の記録]の評価について

<評価>

各教科の目標に照らした学習の到達度を、観点別に3段階で評価しています。

十分満足できると判断されるもの	A
おおむね満足できると判断されるもの	B
努力を要すると判断されるもの	C

<評定>

各教科の観点別評価を総括して5段階で評価しています。

5段階評価と学力の到達度との関連は下記の通りです。

「十分満足できる」のうち、特に程度が高い状況と判断されるもの	5
「十分満足できる」状況と判断されるもの	4
「おおむね満足できる」状況と判断されるもの	3
「努力を要する」状況と判断されるもの	2
「一層努力を要する」状況と判断されるもの	1

<評価の記号> -- → 今回は全員評価していません。
 * → 欠席等の理由により評価できません。

[特別の教科 道徳]の評価について

「特別の教科 道徳」は、より良く生きるための基盤となる道徳性を養うために、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることをねらいとしています。

「道徳」の評価は学習の状況や成長の様子について文章表記しています。

[総合的な学習の時間]の評価について

「総合的な学習の時間」は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることをねらいとしています。そのため体験的な学習、フィールドワーク、発表活動などを通してそれらの能力の育成を目指しています。「総合的な学習」の評価は、取り組みの状況について文章表記しています。

[総合所見]について

学習面での様子のほか、生徒会活動、クラス・班での活動の様子、道徳・特別活動の様子、あるいは基本的な生活習慣が身についているかなどについて記しています。これを参考に、家庭でも行動や生活面での指導をお願いし、学校と家庭とが連携しながら生徒の人格形成、向上をはかっていきたと考えています。

7. テスト受験についての注意

～生徒配布『テストの受け方』より抜粋～

Q1. テストの日に欠席したら、いつテストを受けますか？

⇒次に登校する日に、まとめてテストを受験します。（後日受験扱いになります）

※ テストが終わるまでは、教室での授業は受けられません。
ただし、体育や音楽など実技テストがあるときだけはそちらを優先します。

Q2. テストに遅刻してしまったら、どうなりますか？

⇒テスト開始のチャイムが鳴れば、教室には入れません。まずは職員室へ行き、その後、学年ごとに決められた**別室へ行き、別室でテストを受けられます。**

テスト開始から20分未満の遅刻の場合 次の①か②のどちらかになります。

- ①遅刻した時間からテストを開始する（時間延長なし）。
- ②後日受験をする。

※ リスニングテスト中に遅刻してきた場合は、そのテストは後日受験になります。

テスト開始から20分以上の遅刻の場合

その時間にテストを受けることはできず、後日受験をすることになります。

2時間目以降に遅刻をして来た場合

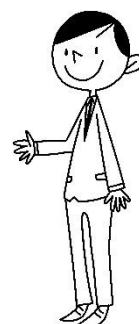
未受験のテストを後日受験することになります。

※後日受験は、その日の放課後や翌日等に行います。先生の指示にしましょう。

Q3. 後日受験してもテストの点数は同じですか？

⇒他の生徒と同じ条件で受けていないため、**参考点とします。**

インフルエンザやコロナといった感染症などによる出席停止、忌引き等、特別の事情がある場合は考慮します。



Q4. テストの途中で体調が悪くなったら、どうしたらよいですか？

⇒無理をせず、すぐに手を挙げて監督の先生に知らせて下さい。



その他、気をつけること

1. カンニングなどの不正行為はもちろん、不正行為と思われるような行為が見つかった場合は、そのテストは0点とし、お家の方に連絡して指導します。
2. 普段の学習の成果を十分に発揮するため、テストに向けて体調を整えることも大切です。体調が悪くテストを受けられないということがないよう、テスト前の体調管理もしっかり行い、頑張ってください。

8. テスト予定

実施予定のテスト	日 程	対 象
学力診断テスト	4月11日	1年生（国語・算数）
全国学力学習状況調査	4月18日	3年生（国・数・英）
前期中間テスト	6月13・14日	全学年
第1回実力テスト	8月27日	3年生
府チャレンジテスト	9月3日	3年生（5教科）
前期期末テスト	9月19・20日	全学年
第2回実力テスト	10月31日	3年生
後期中間テスト	11月14・15日	全学年
府チャレンジテスト	1月9日	1年生（3教科） 2年生（5教科）
第3回実力テスト	1月9日	3年生
3年生後期期末テスト	1月23・24日	3年生
1・2年生後期期末テスト	2月20・21日	1・2年生

※変更になる場合があります

9. 特別支援教育について

本校は、「障がいのある子どもの将来の自立と社会参加を目指し、障がいのない子どもと共に学ぶ」というインクルーシブ教育の理念を踏まえ、支援学級生徒をできる限り通常学級に位置付け、集団の中で力を伸ばしていくことを追求しています。

また、通常学級に在籍する生徒の中にも、学習や人間関係の構築などの面で困り感を持つ生徒がいます。周囲の大人が、支援の必要な生徒の状況にできるだけ早く気づき、特性を理解し、学校・保護者の皆様・関係機関の連携・協力のもと、適切な支援を行っていく必要があります。

何かお困りのことやご相談がありましたら、本校の特別支援教育コーディネーターが面談をいたします。お気軽に本校（694-2862）までご連絡ください。

また、府や市では教育相談を行っています。高槻市や府立支援学校のリーディングチーム（専門家チーム）の巡回相談を受けることができます。相談を希望される方は、本校にご連絡ください。

10. 学びの手引き

次ページより、各教科からの「学習内容」や「評価」「家庭学習」等についての説明を掲載しております。

国語

つきたい力

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ①社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- ②社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- ③言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。
(学習指導要領より)

人間は、「言葉」を持っています。「言葉」で考えます。「言葉」を使って、生きていくために必要な知識や技術を身につけます。「言葉」で表現することにより、人とつながり、よりよく生きることができます。そのために、以下の4つの力をつけることを目標とし、前向きに取り組んでいきましょう。

「話す・聞く力」→目的や場面に応じて相手の意図を聞き取り、自分の思いや考えを適切に伝え、問題解決に向けて話し合う力。

「書く力」→考えをまとめたり、深めたり、広げたりする力。

「読む力」→内容を的確にとらえ、ものの見方や考え方を広げる力。また、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する力。

「言葉についての知識・理解・技能」→言葉の特徴やきまりや漢字を知り、正しく使える力。

授業で大切にしたいこと

- * 相手を尊重して、聞くこと。
- * 相手に伝わるように、話したり、書いたりすること。
- * 自分の考えや思いを整理するために、話し合ったり、書いたりすること。
- * 言葉の意味を調べたり、考えたりして、正確に意図を読み取ること。

3年間の学習内容

1年	2年	3年
1 豊かに想像する 詩・小説	1 豊かに想像する 詩・小説	1 豊かに想像する 詩・小説
2 わかりやすく伝える 説明文	2 わかりやすく伝える 説明文	2 わかりやすく伝える 評論
3 ものの見方・感性を養う 物語・随筆	3 ものの見方・感性を養う 短歌	3 ものの見方・感性を養う 解説・俳句・随想
4 論理的に考える 説明文	4 論理的に考える 説明文	4 論理的に考える 論説
5 古典に学ぶ 古典・漢文	5 古典に学ぶ 古典・漢文	5 古典に学ぶ 古典・漢文
6 情報を関係づける 記録文	6 情報を関係づける 説明文	6 情報を関係づける 論説・実用文
7 読みを深め合う 詩・小説	7 読みを深め合う 詩・小説	7 読みを深め合う 詩・小説
8 視野を広げる 説明文	8 視野を広げる 説明文	8 視野を広げる 論説・小説
9 振り返って見つめる 小説	9 振り返って見つめる 小説	

※ 文法・漢字・作文・感想文・発表・書写は随時履修していきます。

評価の仕方

観点	どこを見ているか	評価するもの（方法）
知識・技能	＊言葉の特徴や決まりを理解し、使える。 ＊伝統的な言語文化に親しみ、理解できる。 ＊漢字を正しく読み、書ける。 ＊文字を正しく書ける。	＊定期テスト「知識・技能」を問う問題 ＊小テスト ＊創作・書写など など
思考・判断・表現	＊相手を尊重し、話の意図を理解できる。 ＊伝え方を工夫することができる。 ＊目的や意図に応じて、構成を考えて書ける。 ＊自分の考えや思い、根拠を明確にして書ける。 ＊内容や要旨を的確にとらえられる。 ＊事実と考えを読み分けられる。	＊定期テストの「思考・判断・表現」を問う問題 ＊ビブリオバトル ＊作文・創作・レポートなどの作品 ＊朗読・発表 など
主体的に学習に取り組む態度	＊課題や授業に取り組む姿勢。	＊作品や提出物の内容 ＊振り返りの表記 など

ビブリオバトルについて

本校では、全学年で「ビブリオバトル」に取り組んでいます。ビブリオバトルとは、ゲーム感覚を取り入れた新しいスタイルの「書評合戦」です。この取り組みにむけて、朝読書の時間や長期休業の際にたくさんのお本と出会ってほしいと思います。あわせて、ご家庭での本のご準備をお願いいたします。

ご家庭でできること

- ＊音読は大切です。教科書の内容、とりわけ古文や詩は何度も声に出して読みましょう。
- ＊活字に慣れましょう。読めない漢字が出てきても、前後から内容を判断しましょう。
- ＊小学校で習った漢字をしっかりと復習し、正しく読み書きできるように練習しましょう。
- ＊わからない言葉は調べましょう。すぐに調べることができるように、手の届く場所に辞書などがあるとよいです。
- ＊新聞・テレビ・インターネットなどのさまざまなメディアを通して、世の中で起きていることや、様々な考えについて、興味・関心を広げましょう。
- ＊日々の生活の中で「なぜそうなるのか」「なぜそう思ったのか」など物事の根拠を意識して、言語化できるように練習しましょう。

社会

つきたい力

・「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す」

(学習指導要領より)

授業で大切にしたいこと

- ・社会的事象に興味・関心を持ち、公共性に基づいた自分の意見や考えを持つ。
- ・自分の意見や考え、まとめたことなどを相手にわかりやすいように伝える。
 - ・話し手の意見や考えを尊重しながら聞き、自分の意見や考えをさらに深める。
 - ・さまざまな意見を、公正な視点を持ってまとめる。

3年間の学習内容

1 年	2 年	3 年
【地理的分野】 世界の姿 日本の姿 世界各地の人々の生活と環境 世界の諸地域 【歴史的分野】 歴史へのとびら 古代までの日本 中世の日本 近世の日本	【地理的分野】 世界から見た日本の姿 日本の諸地域 身近な地域の調査 【歴史的分野】 近世の日本 開国と近代日本の歩み	【歴史的分野】 二度の世界大戦と日本 現代の日本と世界 【公民的分野】 現代社会と文化 現代社会 見方や考え方 個人の尊重と日本国憲法 国民主権と日本の政治 消費生活と経済のしくみ 生産のしくみと金融 財政と国民の福祉 国際社会と人類の課題 持続可能な社会

評価の仕方

観点	どこを見ているか	評価するもの（方法）
知識・技能	・社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身につけているか。 ・社会的事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択して、効果的に活用しているか。	・定期テストの「知識・技能」を問う問題など。 ・レポート ・小テスト
思考・判断・表現	・社会的事象から課題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正	・定期テストの「思考・判断・表現」を問う問題など。 ・ワークシート、発表

	に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	・レポート ・小テスト
主体的に学習に取り組む態度	・社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追求し、よりよい社会を考え自覚を持って責任を果たそうとする。	・授業の取り組み、活動の様子 ・ノート、ワークシートの記述 ・小テストへの取り組み ・ワークなどの提出物 ・授業終わりのふりかえりシート

家庭ですること

予習

- ・次回の授業で勉強する範囲の教科書を読む
- ・教科書を見ながら、問題集などに取り組む

復習

- ・その日あった授業のノート・プリント、教科書の見直し
- ・ノートに自分でまとめ直しをする
- ・問題集などに取り組む

その他

- ・新聞、テレビ、インターネットなどを用いて、時事問題に触れる。
「なぜそんなことが起きているのか」を考えるきっかけとなります。
(なぜロシアとウクライナがもめているのか、なぜ少子高齢化が起きているのか など)
- ・歴史マンガなどを読む。(日本の歴史 の漫画)
歴史マンガを読むことで、時代の流れが理解しやすい。
誰がどんなことをしたかを、楽しく学ぶことができる。
- ・興味を持った出来事、習った事項をインターネットなどで調べてみる。
- ・旅行の際に、その地域や国の観光地や食文化などに触れる。
既習事項があれば、地理の学習で学んだことの理解を深めることができる。
その地域や国の観光地や食文化などを触れることで、その地域や国の自然・産業などを知ることができる。地理に関する興味・関心を抱きやすい。

数 学

つけない力

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

(学習指導要領より)

数学は、「筋道を立てて考える力」を育成する教科です。数学の答えは 1 つですが、答えを求めるための筋道や過程はたくさんあります。まず、1 人で考えて自分の考えを持ちます。その後、自分で他の考え方はないか考えたり、他の人の考え方を交流したりしていきます。色々な方法を交流した後で最後に自分はどのような考え方がいいのかを考えて下さい。また、授業の中で自分の考えやわかったこと、わからないことをペアやグループで伝え合います。自分の考えをわかりやすく説明する力を育てていきたいと考えています。

授業で大切にしたいこと

- *計算する力を身につける → 計算はすべての基本です。出来るだけ多く練習しましょう。
- *問題文をよく読む → 問題の意味を理解することが大切です。図や表を書くと、ヒントが出てきます。
- *自分の考えを大切にする → なぜそのような答えが求められたのか、自分の言葉で説明できるようにしましょう。
- *いろいろな解き方を見つける → 先生や友達の解き方のよさを積極的にみつけましょう。
- *分からないところは質問する → 分からないことをそのままにしないで、わかるまで質問しましょう。

3年間の学習内容

1 年	2 年	3 年
1 章 正の数・負の数	1 章 式の計算	1 章 式の計算
2 章 文字式	2 章 連立方程式	2 章 平方根
3 章 1 次方程式	3 章 1 次関数	3 章 2 次方程式
4 章 比例と反比例	4 章 図形の性質の調べ方	4 章 関数 $y=ax^2$
5 章 平面図形	5 章 三角形・四角形	5 章 相似な図形
6 章 空間図形	6 章 確率	6 章 円
7 章 データの活用	7 章 データの分布	7 章 三平方の定理
		8 章 標本調査

評価の仕方

観点	どこを見ているか	評価するもの（方法）
知識・技能	* 必要性と意味、性質や関係などを理解しているか。 * 概念や原理を理解しているか。 * 具体的な場面で活用できるか。	* 授業における観察 * ノートやワークシートの記述 * レポートの記述 * 定期テスト、小テスト
思考・判断 ・表現	* 事象を、論理的に考察しているか。 * 数量や図形の性質を見出そうとしているか。 * 数・式・図・グラフなど数学的表現を使って表現しようとしているか。	* 授業における観察 * 発表の内容 * ノート、ワークシートの記述 * レポートの記述 * 定期テスト、小テスト
主体的に学習に取り組む態度	* 粘り強く取り組もうとしているか。 * 取り組む中で自分の学習を振り返ったり、改善したりしようとしているか。	* 授業における観察、発表の様子 * ノートやレポートの記述 * 振り返りシートの記述 * 提出物

家庭ですること

勉強が分かるようになるためには、繰り返し学んだり、練習したりしないと自分の身にはつきません。そのためには『毎日、机に向かう習慣をつけること』が大切です。

* その日学習した内容を、同じ問題でいいので、自分の力で解いてみましょう。

* 分からない、出来なかった、間違えた問題などは、そのままにせず、教科書・ノートなどで見直し、理解できるまでやり直しましょう。それでも分からないときは、先生や友だちに聞きにいき、理解しましょう。

* 問題集は授業で学習したところまで、家庭学習を行い、丸つけをしておきましょう。問題集は定期的に集めて確認します。また、繰り返し問題を解くことでより内容が定着します。1周で終わらずに、2周、3周と繰り返し取り組んでみましょう。

* 数学用語は正しく覚えられるように、自分でわかりやすくまとめるようにしましょう。

* 直定規は毎時間持参しておきましょう。

* コンパス・三角定規は連絡したら自分の使い慣れているものを準備し、持参して下さい。

* 身の周りの事象に関心を持ち、「なぜだろう？」「どうしたら、こうなる？」という意識を大切にしましょう。

理 科

つきたい力

「理科の目標と内容」（学習指導要領より）

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

（１）自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。

（２）観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

（３）自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

授業で大切にしたいこと

すべての生徒が参加できる授業作りを心がけ、ICT 機器の活用を適宜行う。実験を通じて生徒が、理科の現象について理解できるようにわかりやすい授業展開を考える。理解しているかどうか確認し、学力をつけていくことを大切にする。

また、自分の考えを表現させる場面をつくり、文章や語句に親しみ発表する力を養う。

3 年間の学習内容

1 年	2 年	3 年
[生命(生物)] 動植物の分類 1 章 身近な生物の観察 2 章 植物の分類 3 章 動物の分類 [粒子(化学)] 身のまわりの物質 1 章 物質の分類 2 章 粒子のモデルと物質の性質 3 章 粒子のモデルと状態変化 [エネルギー(物理)] 身のまわりの現象 1 章 光の性質 2 章 音の性質 3 章 力のはたらき [地球(地学)] 大地の変化 1 章 火山～火を噴く大地～ 2 章 地層～大地から過去を読み取る～ 3 章 地震～ゆれる大地～	[粒子(化学)] 化学変化と原子・分子 1 章 物質のなりたちと化学変化 2 章 化学変化と物質の質量 3 章 化学変化の利用 [生命(生物)] 動植物の生きるしくみ 1 章 生物のからだと細胞 2 章 植物のつくりとはたらき 3 章 動物のつくりとはたらき [エネルギー(物理)] 電流とそこはたらき 1 章 電流と電圧 2 章 電流と磁界 3 章 電流の正体 [地球(地学)] 天気とその変化 1 章 大気の状態と雲のでき方 2 章 天気の変化 3 章 日本の天気	[エネルギー(物理)] 運動とエネルギー 1 章 力のつり合い 2 章 力と運動 3 章 仕事とエネルギー [生命(生物)] 生物どうしのつながり 1 章 生物の成長・生殖 2 章 遺伝と進化 3 章 生態系 [粒子(化学)] 化学変化とイオン 1 章 水溶液とイオン 2 章 酸・アルカリとイオン 3 章 電池とイオン [地球(地学)] 地球と宇宙 1 章 太陽系と宇宙の広がり 2 章 太陽や星の見かけの動き 3 章 天体の満ち欠け [環境] 自然・科学技術と人間

評価の仕方

観点	どこを見ているか	評価するもの（方法）
知識・ 技能	* 基本的な知識・概念や原理・法則を理解し、身につけている。 * 実験装置を組み立てる等、実験の準備を正しく進めている。 * 安全に配慮して実験を進めている。 * 実験結果を表や図を用いて記録している。 * グラフの作成にあたっては、横軸、縦軸を適切に設定し、目盛りを記入し、実験データを基に正しく点を打ち、点と点の間を適切な線で結んでいる。	* 授業における観察 * ノートやワークシートの記述 * レポートの記述内容 * ペーパーテストの結果 * 実験を通じた考察 など
思考力・ 判断力・ 表現力	* 既習事項などの根拠を基に、観察、実験の結果を予想している。 * 観察・実験の目的に対応して、結果を分析して解釈をしようとしている。 * 結果に基づいて、論理的に考察を進め、自分の考えを導いている。 * 文章、その他の方法で自分の考えを表現している。	* ノートやワークシートの記述 * レポートの記述内容 * ペーパーテストの結果 * 授業中の発言・発表内容 など
主体的に学習 に取り組む態 度	* 自然事象への関心や疑問、分きたいことなどを明確にしている。日常生活で見られる事象と関連させるなど、意欲的な記載がある。 * 疑問を持って自発的に行動している。 * 観察、実験に集中して取り組むなど、意欲的に追求している。 * 観察・実験を、安全や環境に対する配慮をしながら行っている。 * 自らの考えを意欲的にまとめたり、発表したりしようとしている。	* 授業における観察・実験への取り組み * ノートやワークシートの記述 * レポートの記述内容 * 授業中の発言・発表内容 など

家庭ですること

- * その日の授業で習った内容を必ず、家で復習しましょう。
- * 授業内で小テストをすることもあるので、家で毎日復習しそなえましょう。
- * 問題集の計算問題や記述で答える問題などを何度も繰り返し解きましょう。
- * いろいろな問題をプリントして配布するので、そのプリントを何回も反復し、学習しましょう。
- * 分からない問題は、そのままにせず、教科書・授業プリント・ノートなどで見直し、チェックを入れて、質問内容をまとめておきましょう。先生や友だちに聞きにいき、理解しましょう。

英 語

つきたい力

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。」

(学習指導要領より)

- ①知識・技能・・・英語の知識を習得し、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能。
- ②思考力・判断力・表現力・・・習得した知識・技能を、コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて、正しく活用する力。英語を用いて、未知の状況に対応していく力。
- ③学びに向かう力、人間性・・・自己の学びと向き合い、社会・世界との関わりの中で、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度。

授業で大切にしたいこと

- ①英語を「聞く」「読む」「話す」「書く」といった様々な活動を通して、実際に英語によるコミュニケーションを積極的に体験しながら学んでいこう。
- ②コミュニケーションを通して、様々な文化や価値観との出会いを楽しみ、互いの理解を深めていこう。
- ③学習目標の達成に向けて、学習の途中で「次にどんなことをすればよいのか」「どんな学び方があるか」「他の人はどんな考えをもっているのか」などを考え、学習の仕方を自分自身で調整していこう。
- ④意欲的なコミュニケーションを、ペアやグループ、クラス全体で行えるよう、失敗や間違いをからかったりせず、互いに励ましあえる授業を自分たちで作っていこう。

3年間の学習内容

1 年	2 年	3 年
身の回りの英語・あいさつ 現在形（be 動詞・一般動詞） 代名詞 命令文 疑問詞 助動詞（can） 現在進行形 接続詞（and、or、so） 過去形（be 動詞・一般動詞） There is ～ 道案内・店内放送・店での注文 チャット 自己/他者紹介 インタビューテスト 「人物紹介」Q&A 「思い出」スピーチ など	未来形 接続詞(when、if) think (that) 助動詞（must） have to / don' t have to 不定詞 動名詞 比較級 / 最上級 as ～ as / not as ～ as how to look ～ show 人 物 受け身 現在完了・現在完了進行形 スモール・トーク プレゼンテーション、スピーチ インタビューテスト など	It ～ for …to do 疑問詞 + to do too ～ to 間接疑問文 分詞による後置修飾 関係代名詞 仮定法 「記者会見をしよう」 「町の PR をしよう」 「中学校生活の思い出を語ろう」 チャット スピーチ インタビューテスト など

評価の仕方

観点	どこを見ているか	評価するもの（方法）
知識・技能	①英語の音声や語彙（単語・熟語）、文法、ことばの働きなどを理解している。 ②①の知識を、聞くこと・読むこと・話すこと・書くことといった実際のコミュニケーションにおいて活用できる。	＊定期テスト「知識・技能」を問う問題 ＊小テスト ＊パフォーマンステスト （ピクチャーテリングや Q&A など） など
思考・判断・表現	①目的・場面・状況に応じて、英語による簡単な情報や考えを理解することができる。 ②目的・場面・状況に応じて、英語で自分の考えや経験、社会的な話題等について表現したり、伝えあったりすることができる。	＊定期テストの「思考・判断・表現」を問う問題 ＊パフォーマンステスト （インタビュー・スピーチやプレゼンなど） ＊ライティング活動 など
主体的に学習に取り組む態度	①英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手を意識しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションをとろうとしている。 ②振り返りや中間交流等を通して、目標に向けて自分で自分の課題を見つけ、改善に向けて学習を調整しようとしている。	＊作品や提出物の内容。 ＊振り返りや単元シート等の記述内容。 ＊活動への取り組みの内容。 など

家庭ですること

- ＊課題は丁寧に取り組み、期日を守り提出しましょう。
- ＊わからない部分は、自分で一度調べたり、先生や友だちに聞いたりして、理解するようにしましょう。
- ＊教科書本文の音読や単語練習等には、少しずつでも毎日取り組むことで、基礎力をつけましょう。
- ＊習ったことを使って、「自分自身や自分の身の回りのことを英語で表現してみる」ことを習慣にしましょう。
- ＊授業の復習はとても大切です。できるだけ、その日のうちに復習をして理解を深めましょう。

☆繰り返し復習することで定着させる☆

- ◎ワーク等の問題⇒①1度目はノートに答えを書く。②間違えた問題は解説を読んだり聞いたりして理解する。③少し時間を空けて次はワークに答えを書く。（「ノートに答えを書く」を繰り返してもよい）
- ◎単語や基本文・教科書本文を覚える ⇒1回で覚えようとせず、何度も繰り返し確認する。1日5分でもよいので、「すきま時間」をうまく活用して何度も読んだり、書いたりすることが大切。
- ◎タブレットを活用して、教科書本文の音声を聞いてリピートしたり、ドリルパークなどで自分の苦手なところを復習したりする。

☆実際に使うことで定着させる☆

- ◎習った単語や文を使って自分でオリジナルの英文を作ってみる。
- ◎自分の気持ちや出来事など、英語で日記を書いてみる。今後の予定や計画を英語で書いてみる。
- ◎自分の興味のあるものを英語で楽しんでみる。
（歌・マンガ・小説・映画・有名人やスポーツ選手のインタビューなど）

音 楽

つきたい力

「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。」

(学習指導要領より)

授業で大切にしたいこと

*声を重ねる楽しさ・音を合わせる楽しさ・分析しながら理解して聴く楽しさ・創り出す楽しさなど音楽とのさまざまな関わり方を楽しむ。

*音楽を通して『人と繋がる』『自分たちの力を信じる心』『まっすぐに表現する力』を大切にできる授業を目指す。

*歌唱では歌声を重ね、心の繋がりを感じられるよう一つ一つの曲を大切にに取り組む。

*器楽ではアルトリコーダー、ギター、トーンチャイムをはじめ、打楽器等を中心に、互いの音を聴き合い、音を重ねてアンサンブルを作り上げる過程も大切にしたい。

*忘れ物をしない。音楽バックを用意し、必要なものを入れて教室に置き、授業に持参する。

*パート練習等、自分たちで創るということを意識して練習に取り組む。

3年間の学習内容

1 年	2 年	3 年
歌唱 校 歌 浜辺の歌 赤とんぼ 君が代 混声 2 部合唱 混声 3 部合唱 器楽 アルトリコーダー 箏 鑑賞 日本の民謡 春 第一楽章 魔王 雅楽 ・映画音楽 創作 リズム 楽典	歌唱 校 歌 夏の思い出 荒城の月 君が代 混声 2 部合唱 混声 3 部合唱 器楽 トーンチャイム ギター 鑑賞 交響曲第5番ハ短調 フーガト短調 オペラ「アイーダ」より 歌舞伎「勧進帳」より 創作 リズム・メロディー 楽典	歌唱 校 歌 花 早春賦 君が代 混声 3 部合唱 卒業歌 器楽 トーンチャイム ギター 鑑賞 ブルタバ（モルダウ） 組曲「展覧会の絵」から 能「羽衣」より 創作 リズム・メロディー 楽典

評価の仕方

観点	どこを見ているか	評価するもの（方法）
知識・ 技能	* 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。	* 実技テスト * プリント等の記述 * 演奏の聴取 * 小テスト
思考・ 判断・ 表現	* 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	* 実技テスト * プリント等の記述 * 演奏の聴取
主体的 に学習 に取り組 む態度	* 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	* 授業（観察、発言内容、演奏の聴取、ワークシート等の記述等）への取り組み

家庭ですること

- * テレビ、インターネット等を通して音楽に対する興味、関心を広げる。
- * 長期休暇中に音楽に関するレポートの宿題を出します。

美術

つきたい力

「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。」

（学習指導要領より）

授業で大切にしたいこと

＊美しいものを見て、素直に美しいと思える感性を育てる。美術科のキャッチフレーズは『感じる力は生きる力だ！』です。

＊中学生ならではの、感じ方、見方を大切に、自分なりの表現主題を見つけ、素直に表現し、校内展示等を通して、仲間の表現も受け止め、自他を尊重する態度を養う。

＊作品制作を進める中で、これまでの美術史を追体験し、自由に道具や素材を活用し、試行錯誤を重ねながら、計画的に制作する姿勢を身に着け、様々な技法を学びながら、自分の表したい主題に適した表現を見つける。

＊毎回の授業の「学び」を振り返り、自分の課題を見つめ、課題解決に意欲を持つ姿勢を大切にする。

3年間の学習内容

1 年	2 年	3 年
見つめ、感じ取り、描く 形の世界を知ろう。 本物そっくりのびんを描こう。 色や光の特徴を知ろう。 （色相環・明度・彩度表 色彩構成） ファイルの表紙デザイン 炎と土の造形（陶芸）	海を越えた文化交流 北斎からゴッホへ ジャポニスムから 金屏風へ 切り絵によるステンドグラス （ランプシェード）	オリジナル・トリックアート （透視図法・不可能立体の 学習） 今の自分、これからの自分 （自画像）

◆全学年共通課題として、美術ファイルの表紙デザインに取り組み。高槻市中学校美術科交流展共同制作を実施します。

評価の仕方

観点	どこを見ているか	評価するもの（方法）
知識・技能	* 形や色、質感などが感情にもたらす効果や、造形的な視点を豊かにするために必要な知識を身につけている。 * 自分の表したいものに合った材料や用具を選択し、意図に応じて表現方法を創意工夫し、制作の順序などを考えながら見通しを持ち、創造的に表現する技能を有している。	* ワークシート・プリント等の記述内容 * 完成作品から素材への理解 道具の正しい使用法への理解度等で評価する。
思考・判断・表現	* 身近なものを見つめ、感じ取った特徴や、ものに託した自分の思いなどをもとに主題を生み出し、豊かに発想し、構想を練る。 * 様々な作品の造形的な良さや美しさを感じ取り、作者の思いや表現の意図と工夫などについて考え、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げている。	* アイデアスケッチ * クラスメートの作品鑑賞や意見交流を自分の政策に生かす。 * 鑑賞ワークシート等の記述内容。 * 完成作品から発想し、構想する力を評価する。
主体的に学習に取り組む態度	* 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現、及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 * 自らの学びを振り返り、新たな課題に向かう意欲、向上心を有している。	* 鑑賞態度・発言内容。 * 授業（ワークシートの記述等）への取り組み。 * ファイルの整理状況・振り返り票、等の記述内容 * 取り組み状況（遅刻・忘れ物・提出物・態度）

家庭ですること

* 長期休暇中の課題制作、休暇明け最初の授業での提出

* 新聞、テレビ、インターネット、自作の写真、落書き帳、等を通して美術に対する興味、関心を広げ、心が動いた画像を収集し、制作に生かす。

保健体育

つきたい力

- 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

(学習指導要領より)

授業で大切にしたいこと

- * 開始時間を厳守する。
- * 安全面に留意する。準備運動をしっかりと行い、けがの防止に努める。
- * 積極的、自主的に取り組む。
- * ペアやチームで協力して取り組む。
- * 運動の楽しさや喜びを味わう。

3年間の学習内容

1 年	2 年	3 年
<体育分野> ・ 体づくり運動 ・ 器械運動 ・ 陸上競技 ・ 水泳 ・ 球技 ・ 武道 ・ 体育理論 <保健分野> 「健康な生活と疾病の予防①」 「心身の機能の発達と心の健康」	<体育分野> ・ 体づくり運動 ・ 器械運動 ・ 陸上競技 ・ 水泳 ・ 球技 ・ 体育理論 <保健分野> 「傷害の防止」 「健康な生活と疾病の予防②」	<体育分野> ・ 体づくり運動 ・ 器械運動 ・ 陸上競技 ・ 水泳 ・ 球技 ・ ダンス ・ 体育理論 ・ 選択授業 <保健分野> 「健康と環境」 「健康な生活と疾病の予防③」

評価の仕方

観点	どこを見ているか	評価するもの（方法）
知識・技能	【体育分野】 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付ける。 【保健分野】 個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付ける。	☆【知識】主に授業内でのワークシートの内容で評価します （体育分野） ・特性や成り立ち、名称や行い方、高まる体力などについて理解をすることができる。 ※汎用的な知識「何のために」、具体的な知識「どのようにして」、方法的な知識「どういった方法で」という知識を関連させて理解することができる。 ☆【技能】主に活動中の取り組みの様子を観察し評価します ・基本的な技術を身に付けることができる。
思考・判断・表現	【体育分野】 運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 【保健分野】 健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	☆主に授業内でのワークシートの内容で評価します ・習得した知識を活用し、関連付けて仲間に伝えることができる。 ・課題解決、公正、責任、共生の視点を踏まえた内容を仲間に伝えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	【体育分野】 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。 【保健分野】 生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。	☆主に活動中の取り組みの様子を観察し評価します ・愛好的態度、責任、協力、参画、共生、健康・安全に関して自己の最善をつくすことができる。

家庭ですること

- * 体調を崩さないために、規則正しい生活を心がける。
- * 食事の管理をさせる。
- * 自ら運動を行う時間を持ち、基礎体力を向上させる。
- * 保健で学んだ知識を実生活で活かす。
- * 運動・スポーツに触れる機会を持つ。（自主的な運動、記事を読む、観戦など）

技術家庭（技術分野）

つきたい力

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成する。

①生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解、それに係る技能に触れ、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解する。

②生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し解決策を構築する。

製作図等に表現し試作等を通じて具体化し、実践を評価。改善するなどの課題解決する力を養う。

③生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

（学習指導要領より）

授業で大切にしたいこと

- ・作品制作を通して、課題を見つけ、対処していく姿勢を身に着ける。
- ・自身及び周囲に対しケガなどをしない(させない)よう、道具類を安全・丁寧に扱えるよう指導する。
- ・ICTの活用や実物見本の提示により、よりわかりやすい授業工夫をする。
- ・情報モラルの授業を通して、正しい情報の知識を獲得する。

3年間の学習内容 今年度の予定

1 年	2 年	3 年
★材料と加工法 材料と加工技術 材料の特徴と性質 作図 道具の名称・使い方 製作実習（10月～の予定） 木工製作品	★エネルギー変換と利用 私たちの生活とエネルギー 電気を安定的に供給するための仕組み エネルギー変換と利用方法 電気に関する基礎知識 ラジオ制作 生物育成	★プログラミングと計測・制御 計測・制御システムについて プログラムの役割と機能 簡単な計測・制御

※情報分野は3年間通して授業をします。

評価の仕方

観点	どこを見ているか	評価するもの（方法）
知識・技能	・ものづくりに対して理解を深め、必要な知識を身に着けているか ・材料や、道具を効果的に扱い、安全に作業を行うことができるか	・小テスト ・実習 ・実習レポート
思考・判断・表現	・ものづくりや道具の利用について学ぶ中で、どのようにして疑問を形にし、周囲と共有し解決に向け取り組んでいるか	・実習の様子 ・授業の振り返り内容 ・レポート
主体的に学習に取り組む態度	・世の中に当たり前存在する科学技術の遍歴を理解し、これからの社会の生活を豊かにするような発想を行うことができる	・授業振り返り ・レポート

家庭ですること

- ・新聞やテレビなどで、技術に関する内容に興味・関心を持つ。
- ・技術の授業で学習した内容を家庭生活に活かす。
- ・簡単な欠損など、自分の力で修理できるものは、実習で学習した内容を思い出して修理できるようになる。
- ・スマートフォンなど通信機器の利用について家庭で情報を共有する。

技術家庭科（家庭分野）

つけない力

生活の営みに関わる見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成する。

①家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに関わる技能を身につける。

②家族・家庭や地域における、生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。

③自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

（学習指導要領より）

授業で大切にしたいこと

*自分の成長に家族をはじめ、たくさんの人が関わっていることに気づけるようにする。

*被服実習（製作実習）では、作品を完成させることができるようにする。

*実習中にけがをしないよう、道具類を安全・丁寧に扱えるようにする。

*実物見本の提示により、よりわかりやすい授業工夫をする。

*他の人の意見を尊重できる雰囲気作り。

3年間の学習内容

1 年	2 年	3 年
家族・家庭や地域とのかかわり	私たちの衣生活	幼児の生活と家族
健康と食生活	私たちの住生活	※調理実習（幼児の間食）
何をどれだけ食べたらよいか	私たちの消費生活	※被服実習（幼児のおもちゃ）
調理と食文化	消費者の権利と責任	3年間のまとめ
生活を豊かにする製作	製作を豊かにする製作	
※調理実習（調理の基礎）	※調理実習（肉料理・郷土料理）	
※被服実習（刺しゅう）	※被服実習（ミシン）	

評価の仕方

観点	どこを見ているか	評価するもの（方法）
知識・技能	・家庭の基本的な機能について理解しているか、食事と栄養や、家庭生活と消費などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けているか。 ・日常食の調理や衣服の選択、布を用いた物の製作、消費生活における情報の収集などに関する基礎的・基本的な技術が身に付いているか。	・定期テスト ・小テスト ・実習の取り組み ・製作物 ・ワークシートの記述内容
思考・判断・表現	・生活を見つめて課題を発見しようとしているか。 ・作品に工夫がみられるか。	・実習時の製作計画 ・製作物 ・ワークシートの記述内容
主体的に学習に取り組む態度	・家族の生活や衣食住に関心をもち、課題解決しようとする姿が見られるか。 ・家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとしているか。	・授業中の取り組み ・班活動への参加 ・ワークシートの記述 ・ふり返しシート ・提出物の状況

家庭ですること

*家庭内の家事を率先して行いましょう。

*家庭内で自分の役割を（ゴミを出す、洗濯物をたたむなど）1つ以上つくりましょう。

*「やってもらって当たり前」から、「自分でやって当たり前」の姿勢をつくっていきましょう。